

ひまねき

警固屋学園通信
第73号
28. 7. 10
発行

PTA教育講演会

宮原高校ダンス部の皆さんをお迎えして

六月十二日に日曜参観日・PTA教育講演会を行いました。講演会には、宮原高校ダンス部の皆さんに来ていただきました。ダンスを披露していただいたり、小中学生にダンスを教えていただいたりしました。

ダンス部の皆さんの息がぴったりあったダンスに、小中学生、会場の皆さんが引き込まれました。全国大会へも出場している宮原高校ダンス部の踊りは、迫力があり素晴らしかったです。

中学生の感想

・警固屋中の卒業生が何名かいてすごいなと思いました。高校生の踊りは激しく頭や体が動いていて、練習はすごくきついのだろうなと心の中で思いました。僕も勉強をあきらめず頑張りたいです。(九年生)

・高校生のパフォーマンスはとてもすごかったです。曲がすごく速いのにみんな踊っているの、とても感動しました。(九年生)

体験コーナーでは、中学生、小学生それぞれが高校生にダンスを教えてもらいました。恥ずかしそうに参加した児童生徒も、最後には笑顔でダンスを披露することができました。高校生の素晴らしいダンス、部活動に打ち込む姿にそこがれをもつことができた講演会でした。



小学生の感想

・きょう、五じかんめにダンスをしたよ。ほくも、ちようせんしたよ。おどかしかったけどがんばったよ。たのしかったよ。(二年生)

・宮原高校のみなさんはとてもダンスが上手でした。私も宮原高校に入ったらダンス部に入りたいです。(五年生)

・宮原高校のダンス部のダンスを見ました。すごく上手でかっこよかったです。何よりもみんなの息がそろっていました。(六年生)

乗り入れ授業(六年生 国語)

警固屋学園では、小学校の音楽科(四、六年)、外国語活動(五・六年)、六年の国語科、算数科の授業で、中学校の先生による乗り入れ授業を行っています。音楽科、外国語活動は年間を通して、国語科、算数科は年間で一、二単元を予定しています。

六月六日～十四日まで、国語科の乗り入れ授業を行いました。六年生が中学校の教室へ行き、中学校国語科の吉本先生の授業を受けました。授業では、「随筆名人になろう」という目標に向かって、自分の体験したことを読み手に分かりやすく書くという学習をしました。六年生は、毎週、中学校の音楽室へは授業を受けに行っていますが、普通教室では初めての授業でした。初めは緊張した様子でしたが、徐々に中学校での授業にも慣れていきました。教科の専門である中学校の先生方の授業を受けるのは、小学生にとってもよい経験だと思います。このような乗り入れ授業が充実しているのも、



小中一貫教育校ならではの、乗り入れ授業を通して、小学生が中学校の生活を楽しくし、小学校から中学校への移行が円滑に進むよう、今後も計画的に実施していきたいと思えます。

六年生の感想

・国語はあまり得意ではなかったけれど、中学校の先生の授業を受けて楽しいと思いました。

・帰るときに中学生に出会つと、来年私たちもこんなふうにするんだなと思いました。中学生になったら今よりもっと勉強をがんばりたいです。

・最初は、中学校についてあまり知らなくて不安だったけれど、何度も行つて慣れたので、来年中学生になるのが楽しみです。

新生「殉国の塔慰霊祭」を終えて

六月二十二日に、鍋山第一公園で殉国の塔慰霊祭があり、警固屋学園八年生が関係者の方々とともに参加しました。

八年生は、総合的な学習の時間に戦時中の生活や呉工廠への空襲の様子、また殉国の塔ができるまでの経緯などを調べたり、地域の方からお話をお聞きしたりして学習をしてきました。新生「殉国の塔慰霊祭」で述べた「慰霊の言葉」は、その学習の中で学んだ内容をまとめたものです。戦争の悲惨さ、平和の大切さを語り継いでいかなければならないこと、世界の国々と理解を深め、平和な世界を築いていくことを述べました。



また、千羽鶴・菊の花を捧げ、哀悼の意を表しました。実際に慰霊祭に参加してみても、参列されている関係者の方々が、高齢であることを実感し、若い世代である自分たちがこれから担う役割について考えた生徒たちでした。

・雨の中でも参加された方々、遺族の方々の思いは、式に参列することでよくわかりました。私は、広島原爆についてたくさんの方が知っていると思います。でも、呉の大空襲は知らない人もいると思います。だから、私たちがしっかり伝え、地域の人の思いをとどけなければならぬと思います。

◇つなげてく 平和の思い 世界へと
◇慰霊祭 平和の思いを 乗せて行け
◇感じたよ 今の平和の ありがたさ
(八年生)

海軍工廠空襲 犠牲者悼む
呉で慰霊祭 平和な未来誓う

殉国の塔慰霊祭を開催し、平和な未来を願うという思いを込めて、塔は10月25日6月22日の空襲でなくなった若者と工員たち計476人を慰霊している。慰霊祭は住民たちでつくる海軍工廠保存会が毎年営んでいる。塔建立のいきさつを毎年、回中で語り聞かされている近所の漢字「千工さん99」は、当時のことを知る人が減る中、若い人の参加はありがたいと話している。(小笠原)

平成28年6月23日(木) 中国新聞(朝刊)に慰霊祭についての記事が掲載されました。

《編集後記》

六月は、大雨の影響で、警固屋学園の校区でも被害があったようです。今後も気象情報に注意して、早めに避難するなど、災害に備えましょう。

ご意見・ご感想は、警固屋小学校・中学校にお寄せください。窓口は各教頭が担当いたします。